

令和4年11月22日

文教産業常任委員会

委員長 早川 文乃 様

文教産業常任委員 重村 法弘

文教産業常任委員会行政視察報告書

下記の日程で行政視察を実施しましたので、別紙のとおり報告します。

記

1. 視察期日及び視察先

令和4年11月15日（火）

愛媛県西条市 「小中学校 ICT 教育推進事業について」
「アウトドア活動促進による地域活性化に向けた取り組みについて」

11月16日（水）

愛媛県松山市 「地産地消促進計画について」
愛媛県大洲市 「観光まちづくり戦略ビジョン、観光まちづくり町家活用エリア実施計画について」

11月17日（木）

楽天農業株式会社 「大洲冷凍工場見学および事業説明」

2. 視察参加名簿

委員長	早川	文乃
副委員長	米弥	又由
委員	重廣	正美
委員	重村	法弘
委員	岩藤	睦子
委員	有田	茂
委員	田村	大治郎
委員	西村	良一
委員	松岡	秀樹

以上9名

3. 視察報告・所感 別紙

(別紙)

視察先	愛媛県西条市			
視察日時	令和4年11月15日 13:30~15:30			
視察項目	小中学校 ICT 教育推進事業について アウトドア活動促進による地域活性化に向けた取り組みについて			
対応部署名	教育委員会、産業経済部観光振興課			
自治体概要	面積	510.04 km ²	人口 (令和4年9月末)	105,966 人
	石鎚山は西日本一の標高 1982m、そのすそ野に位置する西条市は、 とこを打ち抜いても水が吹きでる「水都」ほぼ全域にわたって水道は 必要なく地下水で生活水が得られている。			
視察内容				
<p>西条市庁舎にて座学研修を受講する。</p> <p>ICT教育推進については、これからやってくる超スマート社会に対応した学び、急速に進むグローバル化への人材育成を観点に教育現場での情報化の必要性から未来を生きる子供たちへの基本的な環境整備を進めた事業である。</p> <p>アウトドア活動推進による、地域活性化にむけた取り組みについては、瀬戸内海から西日本最高峰の石鎚山まで広がる雄大で自然豊かなフィールドを活用したアウトドアアクティビティによる観光振興策を推進している事業について研修した。</p>				
所 感				
<p>ICT教育については全国規模で推進・充実が図られようとしているが、学びの現場での活用は勿論、人口過少地域における小学校でのバーチャルクラスルームの実現ができている、遠隔合同授業の開催など複式学級の学びを余儀なくされている子ども達への対応は本市においても必要な手法ではないかと考えさせられた。</p> <p>石鎚山の登山者などアウトドア来訪者への対応は基本備わっているまちではあるがよりまちの活性化に向けた取り組み強化を図った事業である。モンベルとの連携は平成29年9月から始まっており、拠点となるアウトドアオアシス石鎚館（道の駅）のリニューアルには指定管理者にモンベルが受託、自社の用品販売と共に運営がされているのは非常に興味深かった。</p>				

(別紙)

視察先	愛媛県松山市			
視察日時	令和4年11月16日 9:00~10:30			
視察項目	地産地消促進計画について			
対応部署名	松山市農水振興課			
自治体概要	面積	429.40 km ²	人口(令和4年10月1日)	504,509人
	愛媛県の中央部に位置し気候は温暖な瀬戸内海気候。その好条件のもと農業は盛んで柑橘などの産地、漁業も西部の海岸は好漁場を有し優れた景観から瀬戸内海国立公園にも指定されている。			
視察内容				
<p>地産地消推進計画、農林水産物のブランド化推進の取り組みについて座学研修を受講する。</p> <p>農水振興課では、生産支援、獣害対策、担い手育成、農地保全、農業指導、水産担当者がそれぞれの取り組みの推進にあたっている。ブランド推進にあたっては、推進協議会が組織され、その協議会にてブランド製品の決定がされている、協議会の会員は大学農学部、農協、温泉旅館、新聞社、テレビ局、行政等幅広い分野から選任されており高いレベルでの産品ブランド認証が行われている。ウェブサイト、SNSを活用した情報発信、PR活動がされている。</p>				
所 感				
<p>自治体の規模が違う側面もあるが、農林水産物のブランド化付加価値をいかにつけ農・水の産品を全国に発信していくかの戦略ができている。気候的な好条件の側面はあるがブランド化された柑橘「紅まどんな」は1玉1000円以上もするとの状況農家の生産意欲、経営には計り知れない魅力になっている。</p> <p>また水産漁業に関しては、漁業就業者育成強化事業として漁協を介して、漁具、や燃料購入に対して3分2を県と市で補助する施策が実施されており、新規就業者への育成支援が図られている。本市においても漁業に対する支援策がなかなか無い中で参考となる話を聞かせていただいた。</p>				

(別紙)

視察先	愛媛県大洲市			
視察日時	令和4年11月16日 13:30~15:00			
視察項目	観光まちづくり戦略ビジョン、観光まちづくり町家活用エリア実施計画について			
対応部署名	観光まちづくり課			
自治体概要	面積	432.12 km ²	人口(令和4年10月末日)	40,667人
	平成17年に1市2町1村が合併し現在の市域を形成。平成30年7月の西日本豪雨災害では肱川氾濫により大洲盆地は甚大な被害を受ける。			
視察内容				
<p>「官民連携による歴史的資源を活用した観光まちづくり」について行政より説明を受ける。</p> <p>大洲市は、「肱川」が市域の中心を流れ、豊かな歴史と自然に抱かれた風光明媚な水郷として広く親しまれる一方で特徴的観光地であったわけではなかった。明治から大正期に製糸業で繁栄した面影を残す建造物が集中して現存していることや、大洲の歴史や伝統を反映した多種多様な人々の活動が今なお展開されていることから、歴史的建造物と一体となり良好な市街地の環境が形成されている。しかしながら近年では空き家、老朽化した民家が目立ちはじめこれからのまちづくりはこの風情を保ちつつ、景観対策・老朽化への対応そして経済活動への波及を念頭に計画をスタートさせた。</p>				
所 感				
<p>この2年間はコロナウイルス感染症の影響が深刻な状況ではあるが、どこの自治体も今後の観光戦略、インバウンドへの対応はもはや不可欠といっても過言ではないと思う。風情の残る街並み、レトロ感のある建造物をリフォームし街歩きが楽しめるまちづくりには感銘した。まだまだ発展途上ではあるが、その取り組みには学ぶべき視点が多くあった。</p> <p>本市においても、湯本温泉まちづくり、俵山温泉温泉街の活性化等の事業が行われているが、その地域がもつ特性を活かしたまちづくり、景観の維持等は着目点からはずしてはならないと強く感じた。</p>				

(別紙)

視察先	楽天農業株式会社			
視察日時	令和4年11月17日 10:00~12:00			
視察項目	大洲冷凍工場見学および事業説明			
対応部署名	代表取締役 遠藤 忍様、社長室、農業事業部			
会社概要	資本金	3,200万円	従業員数	124名
	15年前に株式会社テレファーム設立、2017年に楽天グループとなる。2020年に楽天農業株式会社として新たなスタートをきる。「野菜を作る会社ではなく、農家を創る会社」事業理念は「新規就農者を増やすこと」全国にオーガニック農家を増やし農業活性化に貢献し続ける会社として歩を進める。			
視察内容				
<p>到着後約40分かけ工場見学の案内を受けた。当日はブロッコリーの作業工程を見学、野菜の受け入れ→水洗い(洗浄)→カット→加熱→冷凍→袋詰 商品になるまでの一連の工程の説明を受けた。</p> <p>座学研修では、遠藤代表から「楽天農業株式会社の取り組みについて」説明を頂きその後、質疑の時間を設けていただいた。</p> <p>日本の農業の現状は急減する農家数や高齢化の問題、増加一方の耕作放棄地と担い手がない現状など、どこの自治体も抱えている問題であるが解決策が見当たらないのが現実「農作物を作る会社ではなく、農家を作る会社」生業とする農家を増やすことが現状打破との強い想いを持たれているようである。</p>				
所 感				
<p>本市にも進出をいただいている会社を訪問する機会が得られ有意義であった。耕作放棄地を主に事業展開をいただく事については本市にとっては農地の利活用はもとより、環境・景観のうえからもほんとうにありがたい。</p> <p>また、これからの本市農業の在り方について一石を投じていただく民間企業の展開に大いに期待できると強く思った。兼業農家が主である農業形態から生業としての農業への道はそう簡単ではないが、施策展開が必要との所感をもった。</p>				